

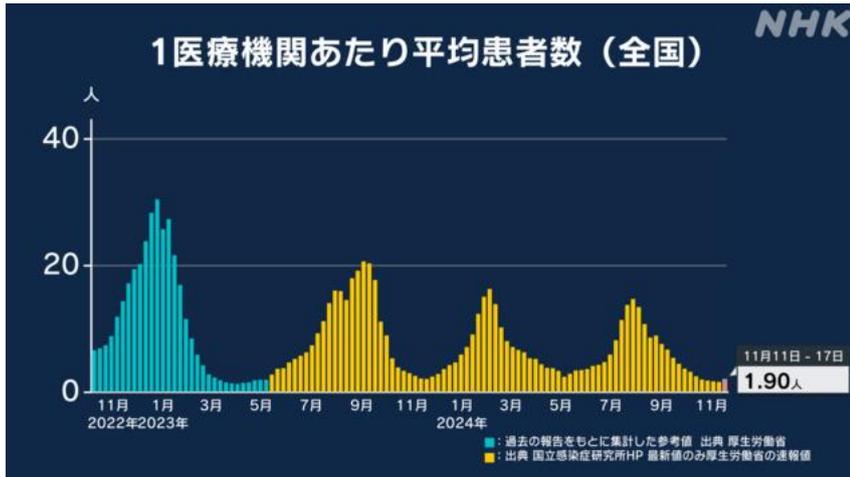
ミヤ研ニュース Vol.2

大雪

発行:アスノミヤ研究所 令和6年12月13日

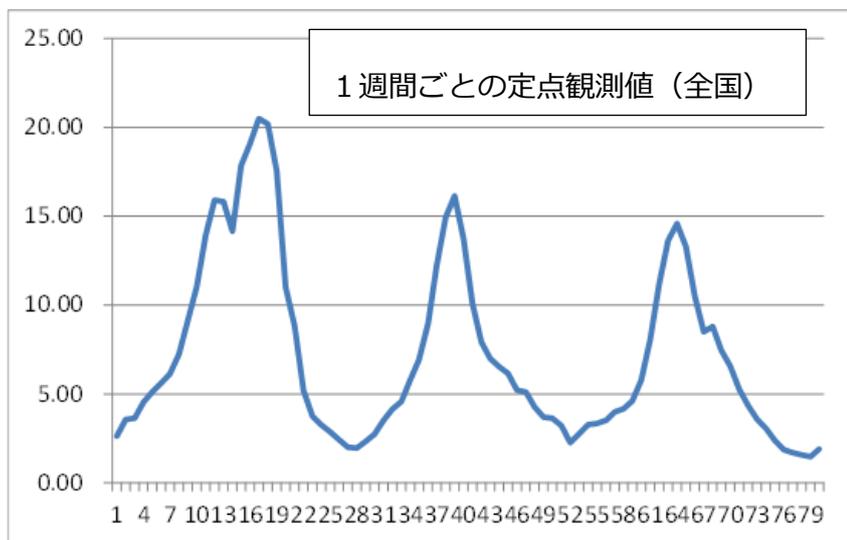


市政研究センターが発行する速報性の高い「ミヤ研速報」の第2回は、令和5年5月の感染法上2類から5類に移行した**新型コロナウイルス**に関して、その後の状況推移と現況について紹介します。



新型コロナウイルスの「5類移行」に伴い、これまでの「全数把握」による毎日の感染者数の発表は2023年5月8日(月)が最後となり、以後は全国5000の医療機関からの報告をもとに公表する「定点把握」に変わりました。その後の経過を左の上図¹に示しました。

2023年5月8日時点での1日当たり感染者数は9,310人、5月9日の死者数は25、重症患者数は83でした。全数調査が定点観測に移行して「捕捉率」がどの程度の割合になったかの手ごかりはありませんが、上図から推測すると大半は捕捉できていると言えそうです。今年の11月11日～17日の平均が1医療機関あたり新規患者数1.9人/日ですから、全国で少なくとも9,500人と見積もられます。新型コロナウイルス自体は、依然として社会のなかに厳然と存在



していることがわかります。筆者の身近なところでも最近、複数の感染者を確認しています。

下図²に見るように、1週間ごとの定点観測の推移で見ると2024年11月4日～10日の1.47人/日を底に、これ以降、北海道や青森県、岩手県など寒冷地で数値が明確に上昇しつつあります。ちなみに5類移行後の流行のピークは3回ありますが、ほぼ5～6か月の規則正しい波動グラフを示しています。1回目が2023年8月26日～9月3日、2回目が2024年1月29日～2月4日、3回目が2024年7月22日～28日となっています。新型コロナウイルス流行に関する波動の要因については、医学的に議論やインターネット上で議論がなされていると思われませんが、暖房、冷房といった建物内の空調運転の影響も要因のひとつであると考えざるを得ません(関心がある方は確認してみてください)。いずれにせよ感染防ぐにはこれまで通り、多くの人が集まる密閉された空間内ではマスクの着用は欠かせないと考えられます。

注1：NHK「感染症データと医療・健康情報」より

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all>（2024年11月23日取得）

注2：朝日新聞社「定点あたりの新型コロナウイルス感染者数」から筆者作成

横軸の単位は5類移行後，何週目なのかを示す。



(担当：三橋)